実施概要

- 本調査では、食事のための買い物を日常的に担当している18歳以上の男女2000人を対象にアンケートを実施した。
- 割付は以下に示す通り、年齢×性別×3グループ（対照群、処置群①、処置群②）に均等割り付けとした。

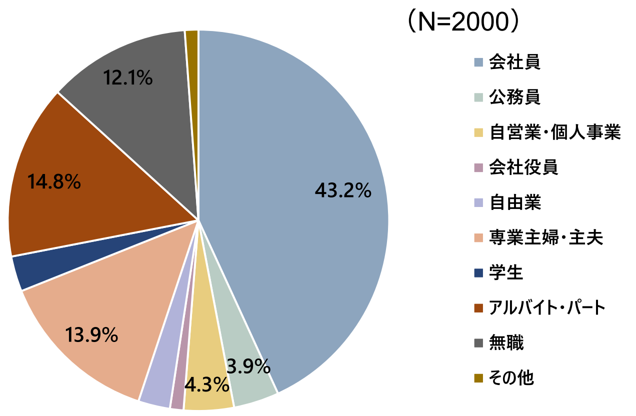
調査割付

	男性			女性			計
	グループ①（対照群）	グループ②（処置群A）	グループ③（処置群B）	グループ①（対照群）	グループ②（処置群A）	グループ③（処置群B）	
18～29歳	66	67	67	66	67	67	400
30～39歳	66	67	67	66	67	67	400
40～49歳	66	67	67	66	67	67	400
50～59歳	66	67	67	66	67	67	400
60歳以上	66	67	67	66	67	67	400
計	330	335	335	330	335	335	2000

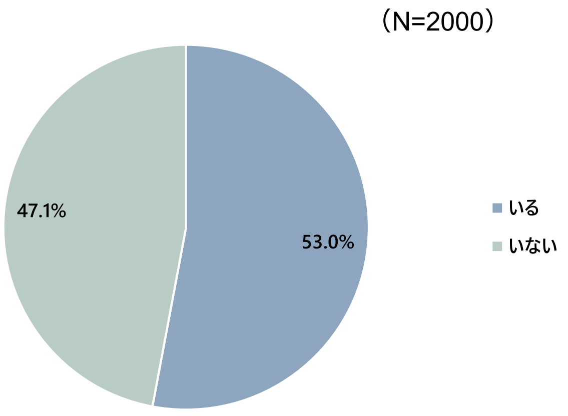
調査結果：回答者属性

■ 本調査の回答者属性は以下の通りである。

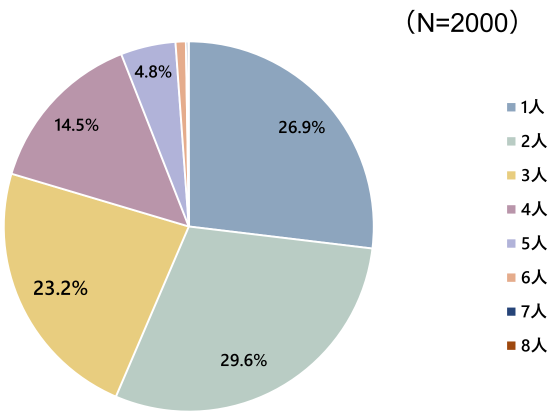
職業



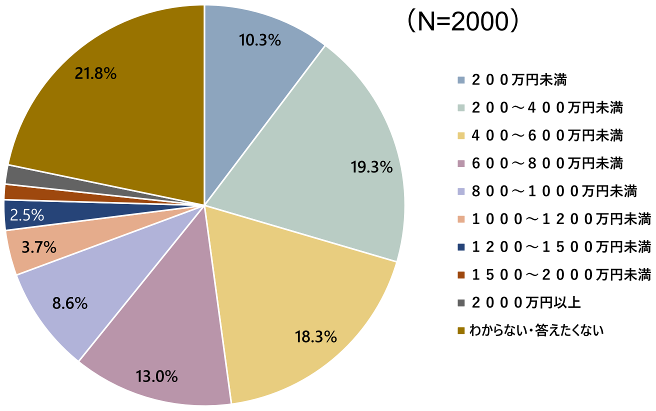
配偶者の有無



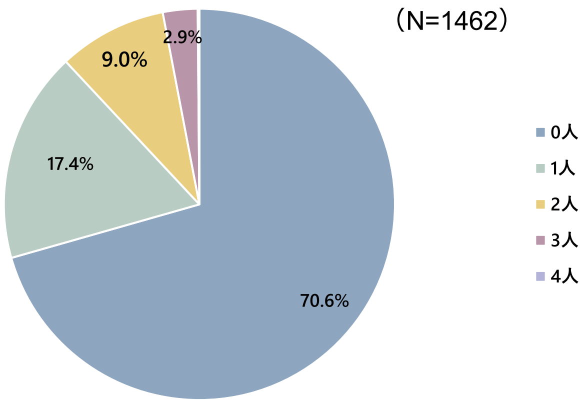
世帯人数



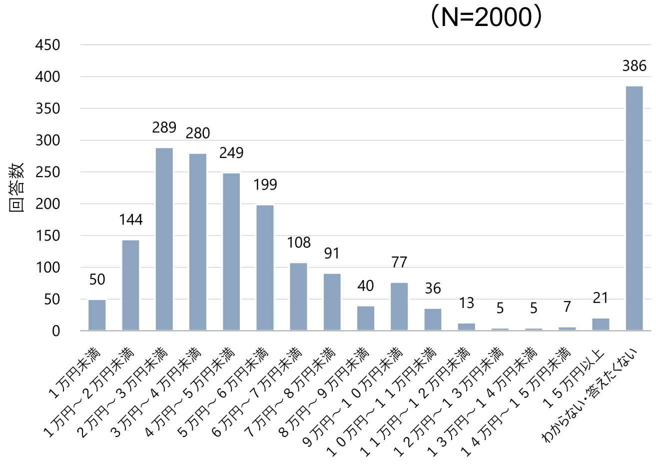
世帯年収



同居している子供の人数



1か月の食費

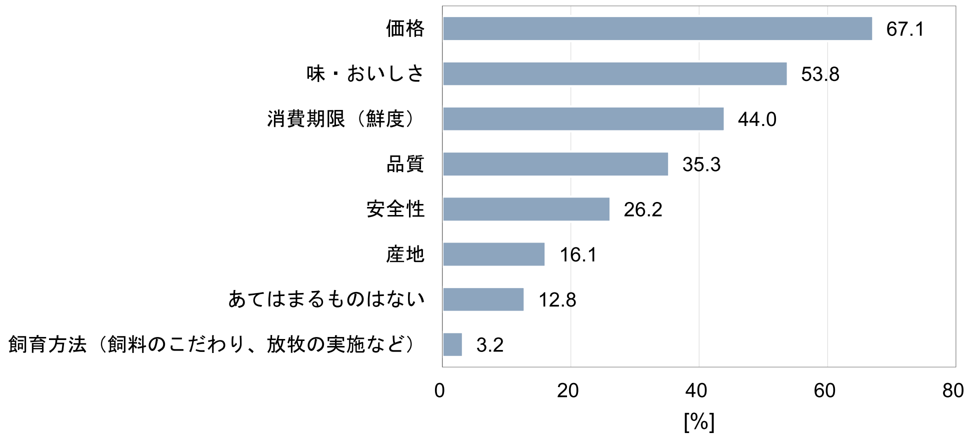


調査結果：畜産物購入時に重視する点

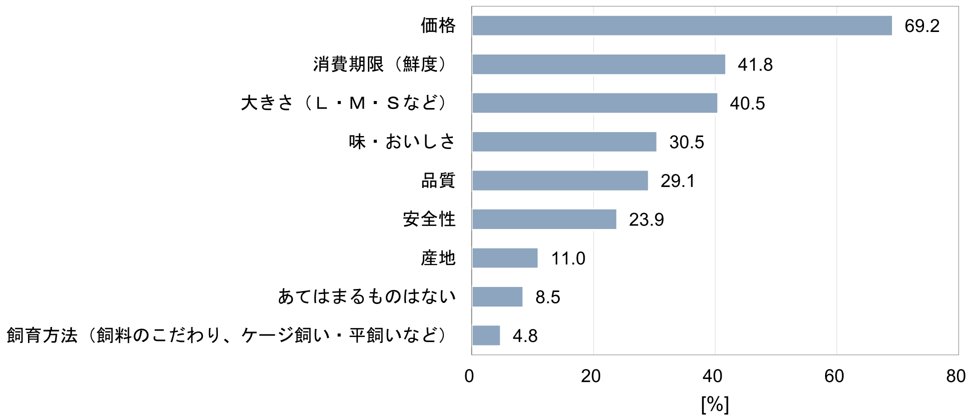
スーパー等で畜産物（牛乳、卵、肉類）を購入する際に重視する点（MA）

■ いずれの品目においても、「価格」が最も重視する点である。牛乳は「味・おいしさ」、卵は「消費期限（鮮度）」、肉類は「品質・見た目」が次いで重視される点である。

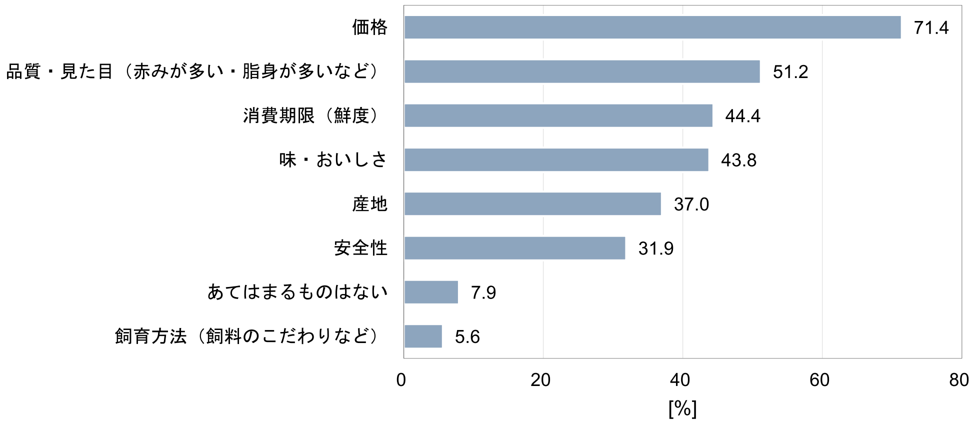
牛乳



卵



肉類（牛肉、豚肉、鶏肉など）



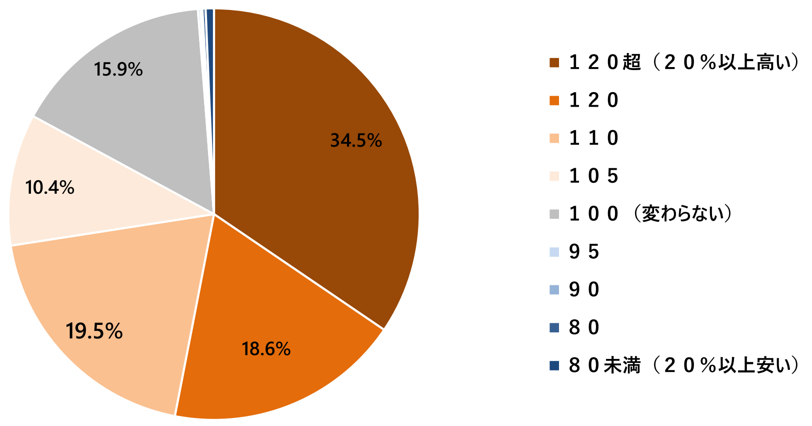
（すべてN=2000）

調査結果：値上げの実感

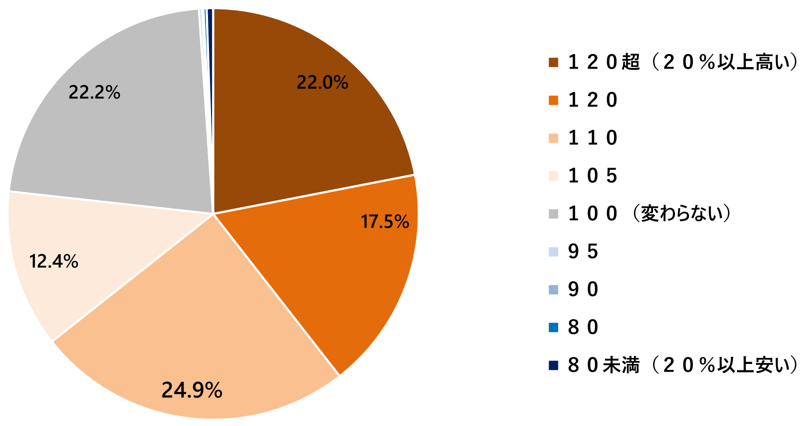
あなたの周りのスーパー等で、畜産物の値上げが起こっていると感じますか？（1年前の価格を100としたときの感覚として最も近いものを回答）（SA）

■ いずれの品目においても、値上がりしていると感じている7～8割を占めた。特に卵では「120超」の割合が34.5%で最大を占めた。

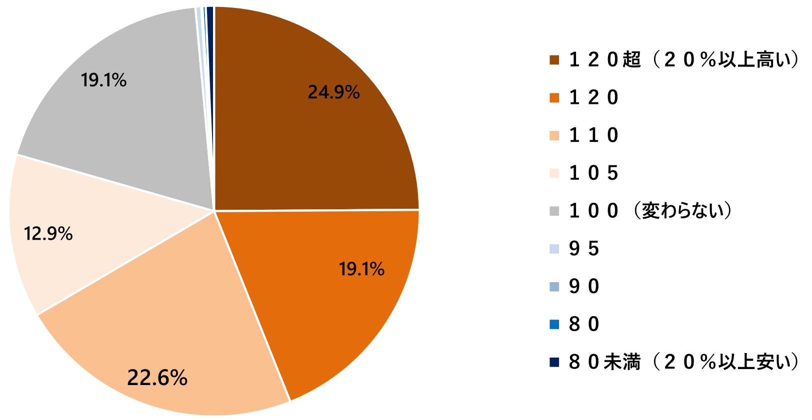
卵



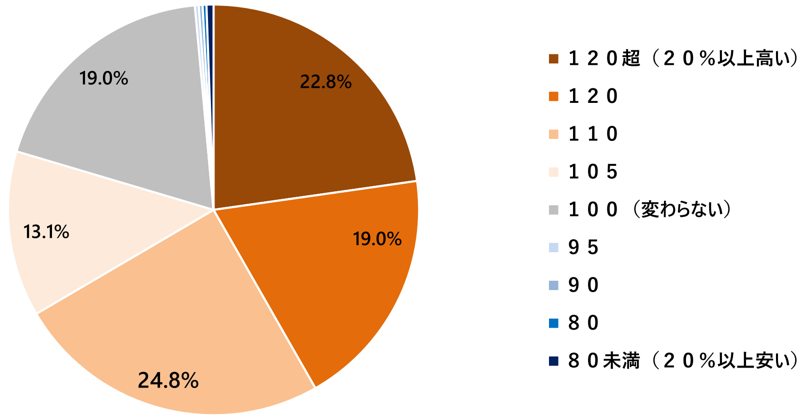
牛乳



牛肉



豚肉

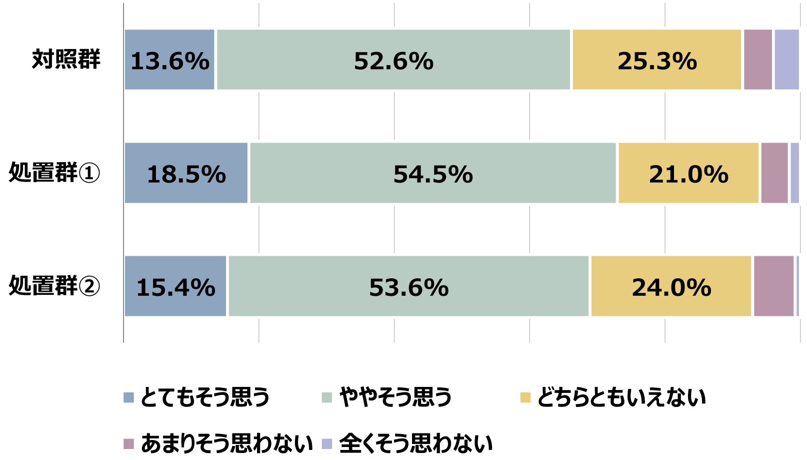


調査結果：値上がりへの定性的反応

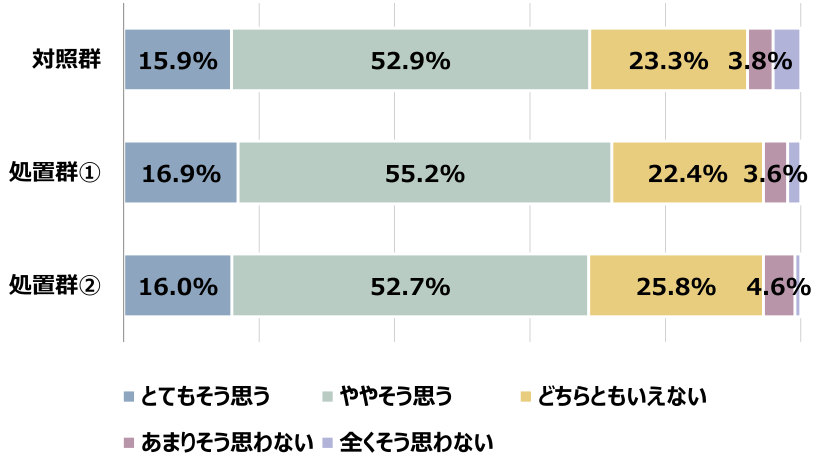
今後、畜産物が値上げされた場合の、あなたのご意見を教えてください（SA）

■ 対照群と比べて、特に処置群①において**値上がりを仕方ないと思える割合が高い**ことが確認された。

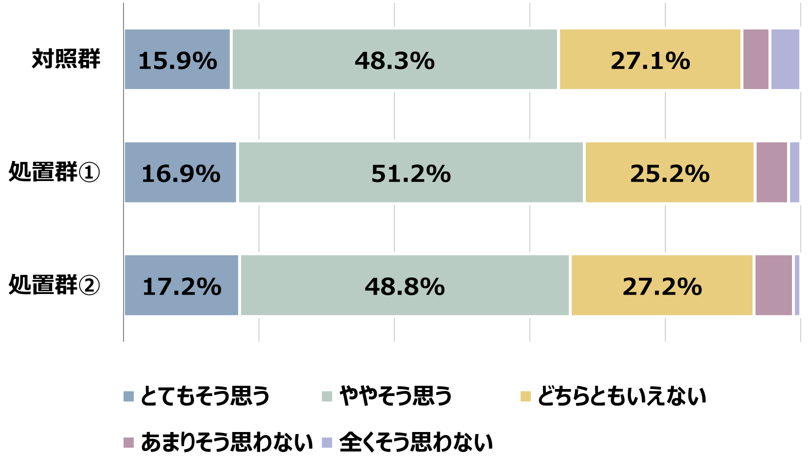
生産コストの上昇による値上げは仕方ないと思う



国内生産者が努力しているのであれば値上げは仕方ないと思う



国内生産者を守るためであれば値上げは仕方ないと思う



調査結果：値上がりへの定性的反応

■ 今後の値上がりに対する反応を群間で比較する分析を行った。

- 「生産コストの上昇による値上げは仕方ないと思う」に関して「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答した合計割合は、対照群で66.2%、処置群①で73.0%、処置群②で69.0%となった。対照群との差は処置群①で+6.8%pt、処置群②で+2.7%ptであり、**処置群①においては統計的な有意差が確認された**。
- 「国内生産者が努力しているのであれば値上げは仕方ないと思う」に関して「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答した合計割合は、対照群で68.8%、処置群①で72.1%、処置群②で68.7%となった。対照群との差は処置群①で+3.3%pt、処置群②で-0.1%ptであり、いずれも統計的な有意差は確認されなかった。
- 「国内生産者を守るためであれば値上げは仕方ないと思う」に関して「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答した合計割合は、対照群で64.2%、処置群①で68.1%、処置群②で66.0%となった。対照群との差は処置群①で+3.8%pt、処置群②で+1.7%ptであり、いずれも統計的な有意差は確認されなかった。

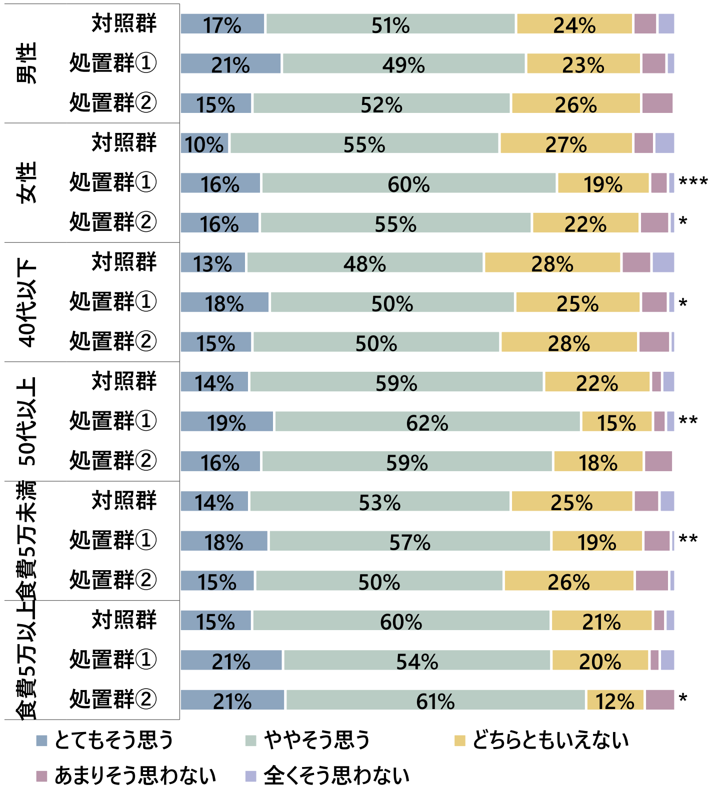
		「とてもそう思う」+「ややそう思う」の割合	対照群との差分	p値
生産コストの上昇による値上げは仕方ないと思う	対照群	66.2%	-	-
	処置群①	73.0%	**6.8%**	0.007
	処置群②	69.0%	2.7%	0.286
国内生産者が努力しているのであれば値上げは仕方ないと思う	対照群	68.8%	-	-
	処置群①	72.1%	3.3%	0.187
	処置群②	68.7%	-0.1%	0.959
国内生産者を守るためであれば値上げは仕方ないと思う	対照群	64.2%	-	-
	処置群①	68.1%	3.8%	0.142
	処置群②	66.0%	1.7%	0.509

調査結果：値上がりへの定性的反応

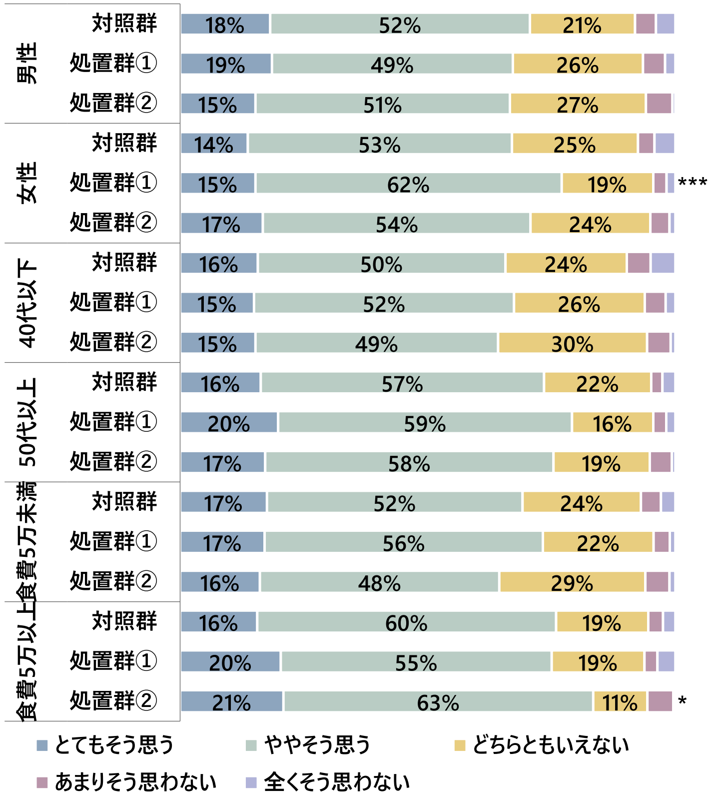
■ 今後の値上がりに対する反応を、性別・年代・食費でグループ分けした上で、群間で比較する分析を行った。

- 「生産コストの上昇による値上げは仕方ないと思う」に関して「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答した合計割合は、**男性では群間の差異が小さかった一方、女性では処置群①における回答割合が大きく**、資材の提示は特に女性に効果的である可能性が示唆された。
- 同様の傾向は「国内生産者が努力しているのであれば値上げは仕方ないと思う」、「国内生産者を守るためであれば値上げは仕方ないと思う」の回答割合についても見られた。

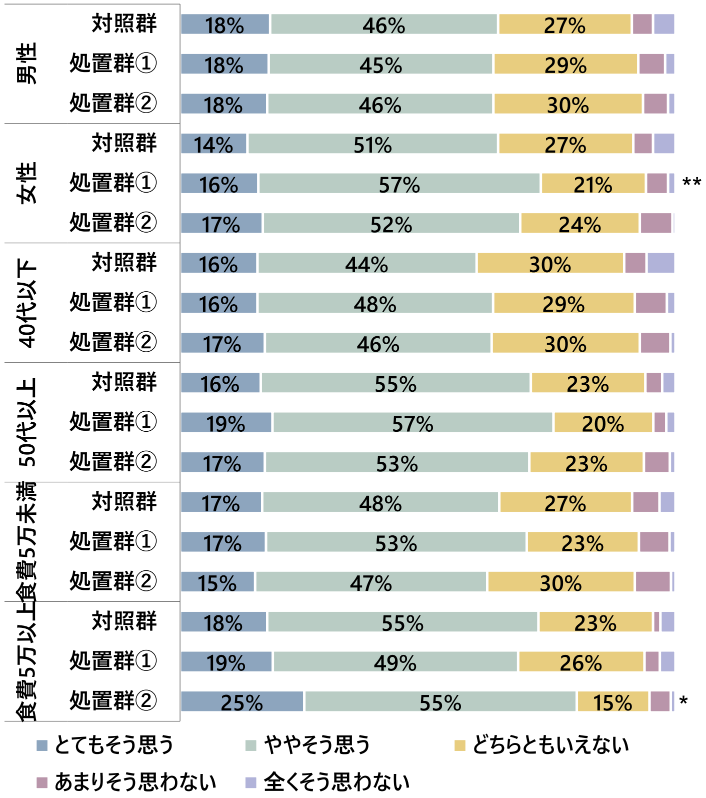
生産コストの上昇による値上げは仕方ないと思う



国内生産者が努力しているのであれば値上げは仕方ないと思う



国内生産者を守るためであれば値上げは仕方ないと思う



（注）***、**、*は、「とてもそう思う」と「ややそう思う」の合計割合が対照群と比較してそれぞれ1%,5%,10%水準で有意差が確認されたことを表す。

調査結果：値上がりへの定性的反応

- 今後の値上がりへの反応に影響する要因を把握することを目的として、回帰分析を行った。
  - 「生産コストの上昇による値上げは仕方ないと思う」を被説明変数とした分析結果を見ると、**高年齢、配偶者あり、子供なし世帯において値上げを受容する**傾向があった。また、**買い物頻度が高い人、買い物時に価格を重視する人、畜産物の値上げへの実感が高い人において値上げを受容する傾向**が見られた。これら属性の消費者は、値上げへの抵抗感が高い層であるとも想定されたが、買い物頻度が高く食品への関心も高い層であることから、値上げが必要な背景事情等についても理解しており、値上げを受容するような傾向が見られたと解釈される。
  - 同様の傾向は、「国内生産者が努力しているのであれば値上げは仕方ないと思う」「国内生産者を守るためであれば値上げは仕方ないと思う」の分析結果でも見られた。

	被説明変数					
	生産コストの上昇による値上げは仕方ないと思う		国内生産者が努力しているのであれば値上げは仕方ないと思う		国内生産者を守るためであれば値上げは仕方ないと思う	
説明変数	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差
定数項	2.117***	(0.184)	2.264***	(0.178)	2.137***	(0.183)
処置群①	**0.110***	(0.055)	0.042	(0.054)	0.029	(0.057)
処置群②	**0.102+**	(0.054)	0.049	(0.054)	0.079	(0.056)
女性	-0.027	(0.051)	-0.039	(0.050)	0.002	(0.052)
年齢	**0.003+**	(0.002)	0.003	(0.002)	**0.003+**	(0.002)
買い物頻度：高	**0.163*****	(0.049)	**0.187*****	(0.049)	**0.179*****	(0.052)
価格を重視（卵購入時）	**0.137****	(0.050)	**0.175*****	(0.049)	**0.180*****	(0.051)
畜産物の値上げへの実感（卵）	**0.033+**	(0.017)	0.025	(0.016)	0.018	(0.017)
1週間に卵1パック以上購入	0.041	(0.048)	**0.095***	(0.048)	0.062	(0.050)
職業：専業主婦・主夫、学生、アルバイト・パート、無職、その他	0.000	(0.053)	0.016	(0.053)	0.012	(0.056)
世帯人数	0.005	(0.029)	-0.011	(0.028)	-0.013	(0.030)
配偶者あり	**0.106+**	(0.058)	**0.110+**	(0.059)	**0.151***	(0.062)
子供あり	**-0.186***	(0.073)	**-0.160***	(0.069)	**-0.141+**	(0.075)
世帯年収600万以上	0.071	(0.053)	0.082	(0.052)	0.06	(0.055)
世帯一人あたり1か月食費	-0.012	(0.022)	-0.027	(0.021)	-0.005	(0.021)
サンプルサイズ	1462		1462		1462	
R2 Adj.	0.033		0.04		0.033	

（注）
- 括弧内は頑健標準誤差を表す。
- 係数の隣の記号は、+ $p < 0.1$, * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$を表す。
- 被説明変数には、「とてもそう思う」：4、「全くそう思わない」：0となるように変換した値を使用
- 畜産物の値上げへの実感（卵）は1年前と比較した値上がりの実感を9段階で聴取した結果を用いて、「120超」：9、「80未満」：1となるように変換した値を用いた。
- 世帯一人あたり1か月食費は、1か月あたりの食費の回答結果を「１万円未満」：１、「１万円～２万円未満」：２のように変換した上で、世帯人数で除した値を用いた。なお、世帯人数の算出においては世帯内の子供の人数を0.5人とカウントした。
- 世帯年収または1か月の食費を「わからない・答えたくない」と回答したサンプルは分析から除外した。

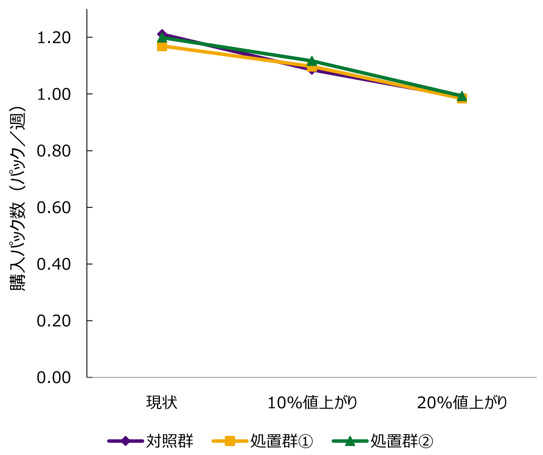
MUFG

調査結果：値上がりへの定量的反応

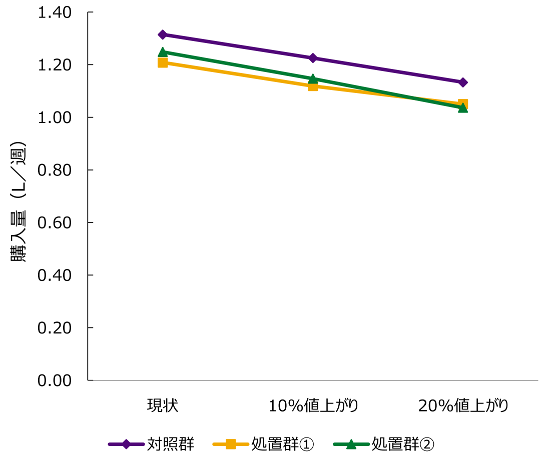
１週間の平均購入数量（SA）

■ 値上がりした場合の購入数量の反応に群ごとの大きな差異は見られなかった。

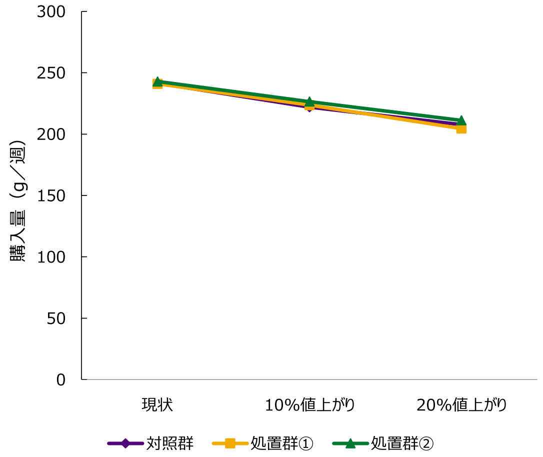
卵



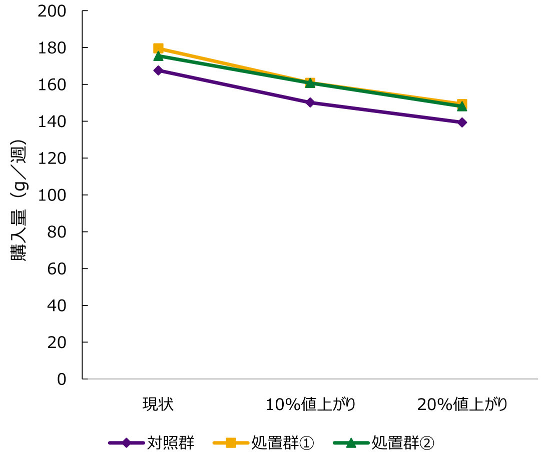
牛乳



豚肉



牛肉



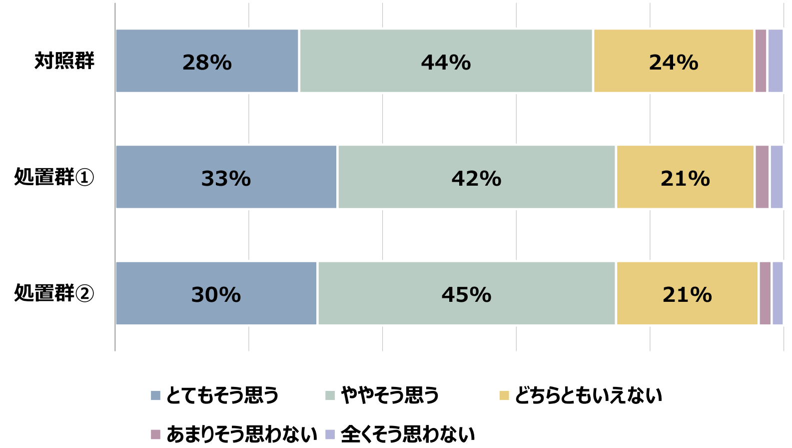
（注）設問では選択肢式で購入数を尋ねていることから、以下のように対応させて平均値を算出した。牛乳・豚肉・牛肉も同様。
「買わない～半パック（６個）未満」→0.25パック、「半パック（６個）以上１パック未満」→0.75パック、「１パック以上２パック未満」→1.5パック、「２パック以上」→2.5パック

調査結果：畜産に対する理解

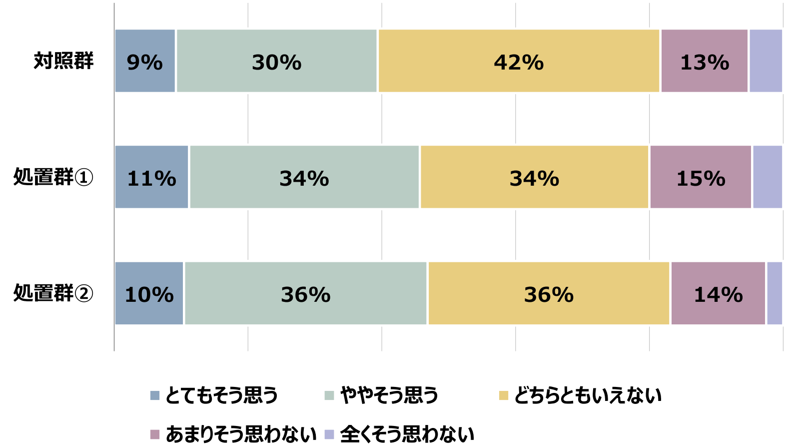
畜産物（牛乳・肉類・卵）の販売価格に関して、あなたのお考えやご理解に最も近いものをお選びください（SA）

■ 処置群①処置群②では、対照群と比べて**畜産物の価格とコストに関する背景事情への理解が進んでいる**ことが確認された。

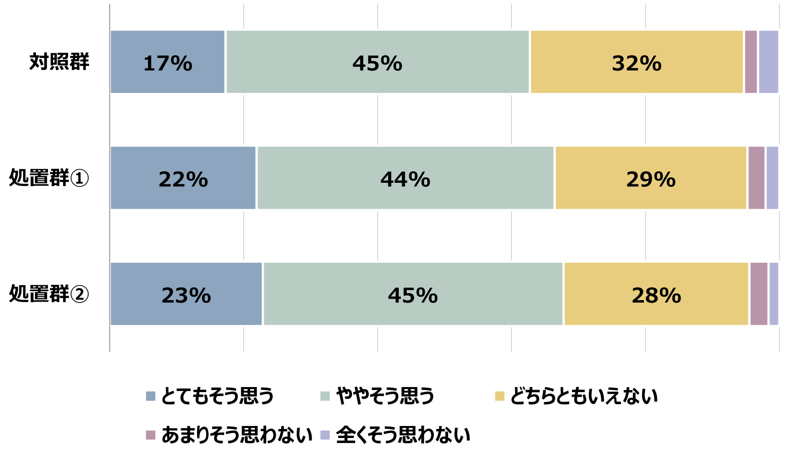
畜産物の生産に必要な飼料（エサ）の価格は、近年上昇している



畜産物の価格は、生産者や小売事業者の努力によって、現状は大きな値上がりは起きていない



今後、畜産物の販売価格を上げていかなければ、国内の畜産農家の経営が立ち行かなくなる



調査結果：畜産に対する理解

■ 畜産物の販売価格に関する理解を群間で比較する分析を行った。

- 「畜産物の生産に必要な飼料（エサ）の価格は、近年上昇している」に関して「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答した合計割合は、対照群で71.5%、処置群①で74.9%、処置群②で74.9%となった。対照群との差は処置群①で+3.4%pt、処置群②で+3.4%ptであり、いずれも統計的な有意差は確認されなかった。
- 「畜産物の価格は、生産者や小売事業者の努力によって、現状は大きな値上がりは起きていない」に関して「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答した合計割合は、対照群で39.4%、処置群①で45.7%、処置群②で46.9%となった。対照群との差は処置群①で+6.3%pt、処置群②で+7.5%ptであり、**いずれも統計的な有意差が確認された**。
- 「今後、畜産物の販売価格を上げていかなければ、国内の畜産農家の経営が立ち行かなくなる」に関して「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答した合計割合は、対照群で62.7%、処置群①で66.4%、処置群②で67.8%となった。対照群との差は処置群①で+3.7%pt、処置群②で+5.0%ptであり、**処置群②においては10%水準で統計的な有意差が確認された**。

		「とてもそう思う」＋「ややそう思う」の割合	対照群との差分	p値
畜産物の生産に必要な飼料（エサ）の価格は、近年上昇している	対照群	71.5%	-	-
	処置群①	74.9%	3.4%	0.161
	処置群②	74.9%	3.4%	0.161
畜産物の価格は、生産者や小売事業者の努力によって、現状は大きな値上がりは起きていない	対照群	39.4%	-	-
	処置群①	45.7%	**6.3%**	0.021
	処置群②	46.9%	**7.5%**	0.006
今後、畜産物の販売価格を上げていかなければ、国内の畜産農家の経営が立ち行かなくなる	対照群	62.7%	-	-
	処置群①	66.4%	3.7%	0.160
	処置群②	67.8%	**5.0%**	0.054

MUFG